2018年度決算説明会
（2018年4月～2019年3月）

開催日：2019年5月21日
（東京都文京区小石川一丁目28番1号）

ジオスター株式会社

© 2019 GEOSTR CORPORATION, All Rights Reserved.

目次

1. 2018年度決算概要（P3～P13）

2. 2019年度業績予想（P14～P16）

3. 参考資料（P17～P27）

© 2019 GEOSTR CORPORATION, All Rights Reserved.

1. 2018年度決算概要

・2018年度の事業環境・・・・・・・・・・・・・・P4
・2018年度決算の概況・・・・・・・・・・・・・・P5
・連結決算概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P6
・受注高・受注残の推移 ・・・・・・・・・・・・・P7
・連結貸借対照表概要 ・・・・・・・・・・・・・・P8
・連結主要経営指標 ・・・・・・・・・・・・・・・・P9
・キャッシュフロー計算書概要・・・・・・・P10
・設備投資・減価償却の推移 ・・・・・・・P11
・2018年度・期末剰余金の配当・・・・・P12
・配当金の推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P13

© 2019 GEOSTR CORPORATION, All Rights Reserved.

2018年度の事業環境

【土木事業】
●公共投資は弱含みの動きが見られるものの、先行きは次第に補正予算の効果が期待され、底堅く推移することが見込まれる。

但し、以下の点は注視が必要である。
●競合他社の能力増強に伴う競争激化。

●建設技能労働者、輸送従事労働者は不足傾向。

© 2019 GEOSTR CORPORATION, All Rights Reserved.

2018年度決算の概況

大型セグメントを含めたセグメント製品増加による売上増に加え、全工場の操業最大化に向け各工場の設備投資、整流化対策、相互連携強化に取組み、全社最適生産体制を推進すると共に、原価低減施策を実行することで、前連結会計年度を上回る業績となる。

●東松山工場・茨城工場
・東京外かく環状道路主体の製造から
羽田際内、相鉄東急等混合の製造への移行が加速。
（セグメントに特化）
・土木製品は、金谷工場以西で連携生産。

●海外事業
・足元における事業環境が著しく悪化。
・特別損失（関係会社事業損失）計上。

© 2019 GEOSTR CORPORATION, All Rights Reserved.

連結決算概要

（単位：百万円）

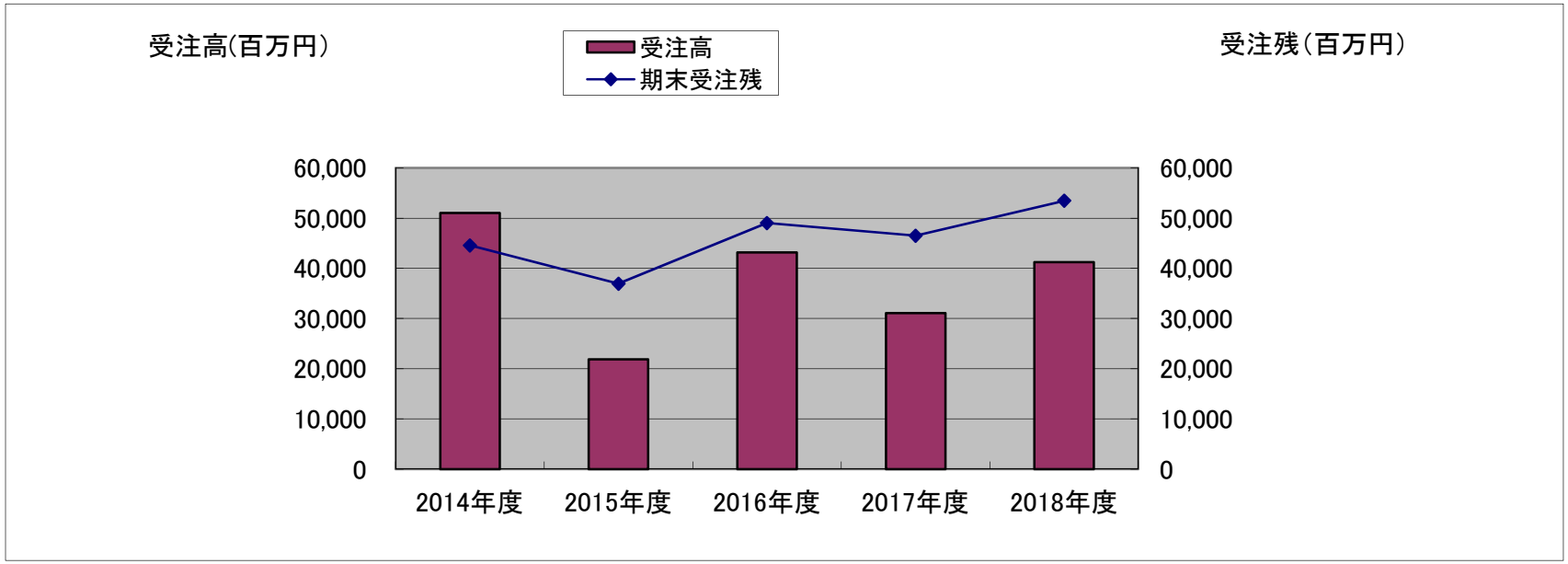
		2017年度 実　績 A	2018年度 実　績 B	前期比 C=B-A	増減率 C/A	2018年度業績予想公表値 2018年 5月15日	2018年 9月6日 （配当修正）	2019年 2月27日 （配当修正）	予想 公表値 増減率
売上高		33,640	34,266	626	1.9%	35,800	35,800	35,800	△ 4.3%
営業利益		3,387	3,504	117	3.5%	2,800	2,800	2,800	25.1%
経常利益		3,387	3,507	120	3.5%	2,800	2,800	2,800	25.3%
親会社株主に帰属する当期純利益		2,198	2,022	△ 175	△ 8.0%	1,800	1,800	1,800	12.3%
配当（円）	中間	5.00	5.00	-		未定	5.00	5.00	
	期末	16.00	14.50	△ 1.50		未定	未定	12.00	
	年　間	21.00	19.50	△ 1.50	△ 7.1%	未定	未定	17.00	

© 2019 GEOSTR CORPORATION, All Rights Reserved.

受注高・受注残の推移

（単位：百万円）

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
受注高	51,044	21,890	43,152	31,097	41,219
期末受注残	44,560	36,926	49,034	46,491	53,444



© 2019 GEOSTR CORPORATION, All Rights Reserved.

連結貸借対照表概要

（単位：百万円）

科　　目	2017年度 A	2018年度 B	増減額 B−A
現預金同等物	1,851	2,905	1,054
受手・売掛金	8,744	7,776	△ 967
たな卸資産	8,371	8,223	△ 148
未収入金	3,617	3,627	10
その他	287	285	△ 2
流動資産合計	22,871	22,818	△ 53
有形固定資産	9,485	8,478	△ 1,006
投資有価証券他	1,475	1,669	194
固定資産合計	10,960	10,148	△ 811
資産合計	33,832	32,966	△ 865

科　　目	2017年度 A	2018年度 B	増減額 B−A
長短借入金	4,018	2,120	△ 1,897
支手・買掛金・未払	8,068	7,589	△ 479
その他	3,376	3,715	339
負債合計	15,463	13,425	△ 2,038
自己資本	18,332	19,777	1,445
その他有価証券評価差額金	490	553	63
非支配株主持分	36	△ 236	△ 272
純資産合計	18,368	19,541	1,172
負債純資産合計	33,832	32,966	△ 865

© 2019 GEOSTR CORPORATION, All Rights Reserved.

連結主要経営指標

	2017年度	2018年度
自己資本当期純利益率（ＲＯＥ）	12.6%	10.6%
総資産経常利益率（ＲＯＡ）	10.3%	10.5%
売上高営業利益率	10.1%	10.2%
D/Eレシオ	0.22倍	0.11
自己資本比率	54.2%	60.0%
有利子負債残高	4,018百万円	2,120百万円
期末総資産	33,832百万円	32,966百万円
期末自己資本	18,332百万円	19,777百万円

© 2019 GEOSTR CORPORATION, All Rights Reserved.

キャッシュフロー計算書概要

2018年度はフリーキャッシュフローの増加35.9億円により借入金返済18.6億円、配当金支払6.5億円を行う。

（単位：百万円）

	2017年度 A	2018年度 B	増減額 B−A
税金等調整前当期純利益	3,287	2,883	△ 403
減価償却費	1,447	1,165	△ 281
法人税	△ 1,250	△ 1,373	△ 123
その他営業キャッシュフロー	△ 1,554	1,716	3,271
投資キャッシュフロー	△ 1,684	△ 796	887
フリーキャッシュフロー	245	3,595	3,350
借入金等　返済・調達	700	△ 1,866	△ 2,566
支払配当	△ 578	△ 656	△ 78
その他	△ 9	△ 18	△ 9
現金同等物　増減額	357	1,054	696
現金同等物　期首残	1,493	1,851	357
現金同等物　期末残	1,851	2,905	1,054

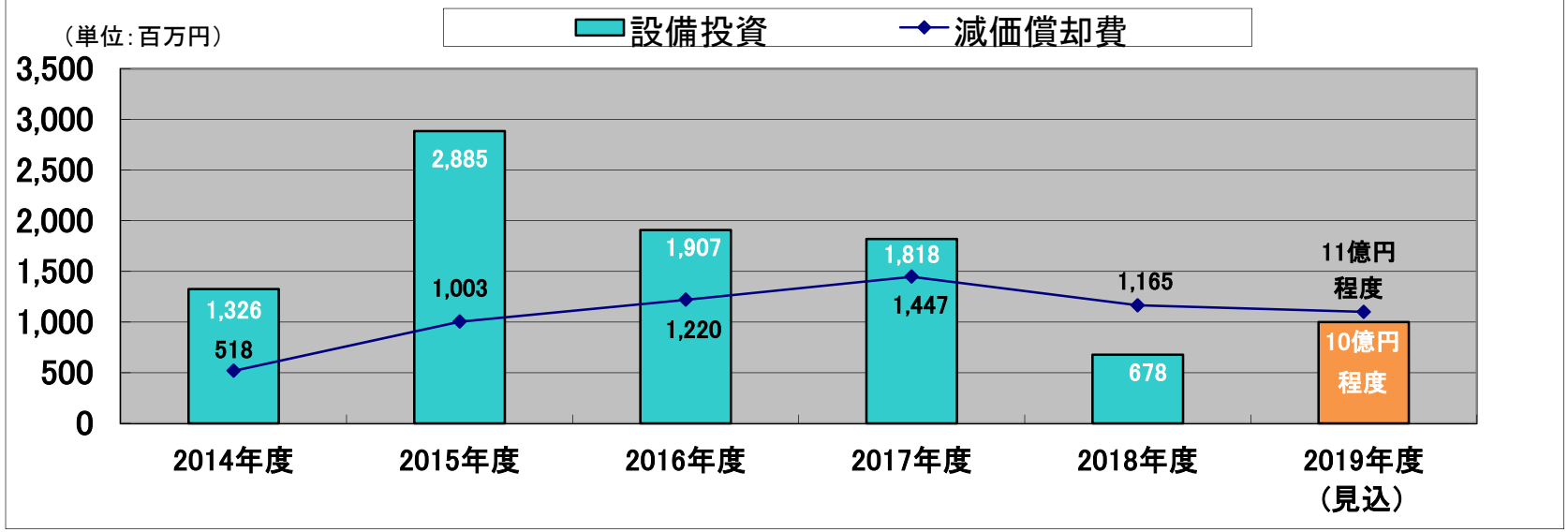
© 2019 GEOSTR CORPORATION, All Rights Reserved.

設備投資・減価償却の推移

2018年度の設備投資は、生産設備の維持補修、型枠購入、無形固定資産を含めて6億78百万円の設備投資を実施いたしました。

（単位：百万円）

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度（見込）
設 備 投 資	1,326	2,885	1,907	1,818	678	10億円程度
減 価 償 却 費	518	1,003	1,220	1,447	1,165	11億円程度



© 2019 GEOSTR CORPORATION, All Rights Reserved.

2018年度・期末剰余金の配当

当期末の剰余金の配当につきましては、既公表の配当方針に従い、1株につき14円50銭として定時株主総会にご提案させて頂く予定です。
2018年12月に1株につき5円の中間配当を実施しておりますので、当期の年間配当金は1株につき19円50銭となります。

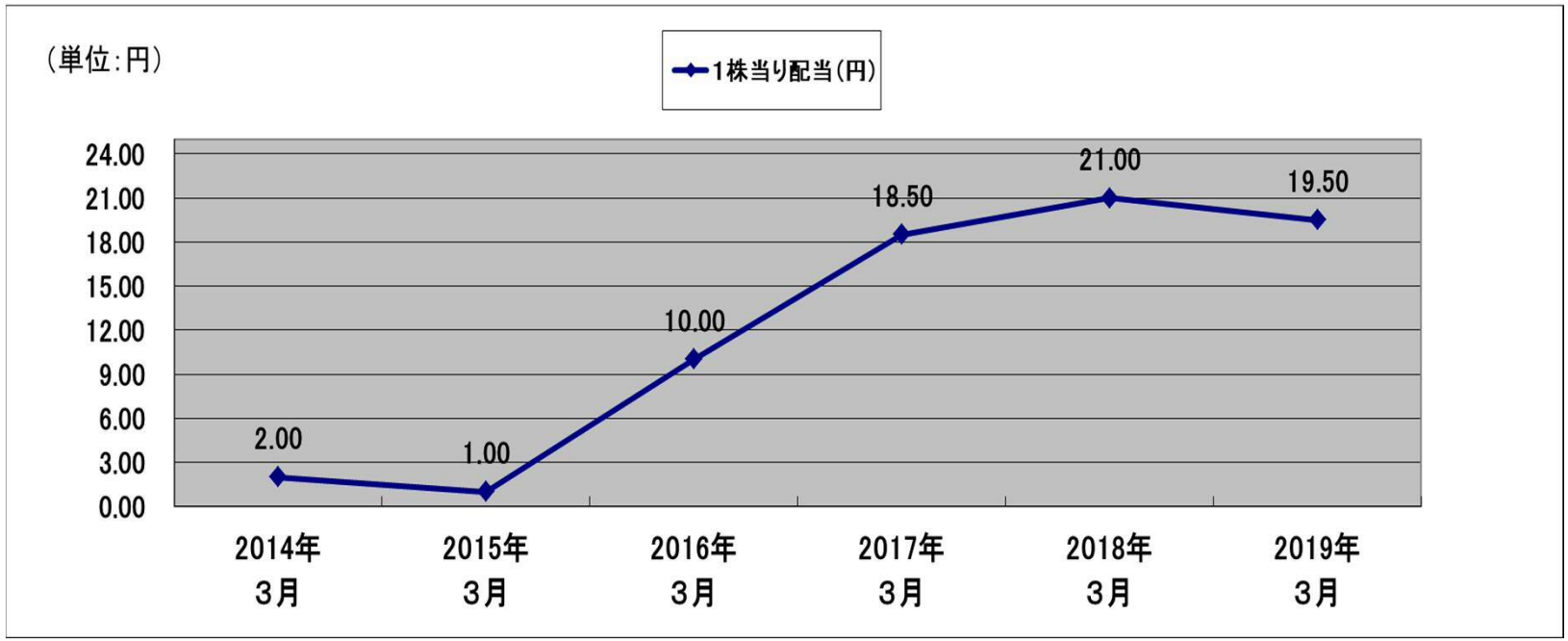
【利益配分に関する基本方針】

当社グループは適正な利潤の確保に努め、健全な発展と永続性を目指し、収益状況に対応した安定適性な配当維持に努力することを基本方針としております。また内部留保を充実し、企業体質の強化と将来の事業展開に備えたいと考えております。

© 2019 GEOSTR CORPORATION, All Rights Reserved.

配当金の推移

決算年月	2014年3月	2015年3月	2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月
1株当り配当（円）	2.00	1.00	10.00	18.50	21.00	19.50
（内中間配当額）	（−）	（−）	（−）	（5.00）	（5.00）	（5.00）



© 2019 GEOSTR CORPORATION, All Rights Reserved.

2. 2019年度業績予想

・2019年度の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P15
・2019年度業績予想 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・P16

© 2019 GEOSTR CORPORATION, All Rights Reserved.

2019年度の概要

●事業環境

大型物件の端境期にあたることに加え、能力増強を行った競合他社との競争激化、及び資材価格、輸送費の上昇等が懸念される。

●対策

・今後発注が予定されるリニアを中心とした大型セグメント物件を親会社である日本製鉄株式会社との営業連携強化を図り、確実な受注に努める。

・引き続き、各工場の連携強化を図り、全社最適生産に取り組むと共に、徹底したコスト削減策を実行し、収益向上に努める。

・ハイブリッド建材を中心とした差別化製品の開発、展開を進めることで土木製品の市場開拓強化を図る。同時に大型、特殊製品の技術提案力を強化する。

・海外事業については、市場悪化を踏まえた事業構造の見直しを実施する。

© 2019 GEOSTR CORPORATION, All Rights Reserved.

2019年度業績予想

（単位：百万円）

	2018年度		2019年度			前期比	
	実績		業績予想（5/15公表値）			増減額	増減率
	A	比率	第2四半期（累計）	通期 B	比率	C=B−A	C/A
売上高	34,266	100.0%	15,000	31,000	100.0%	△ 3,266	△ 9.5%
営業利益	3,504	10.2%	750	1,000	3.2%	△ 2,504	△ 71.5%
経常利益	3,507	10.2%	750	1,000	3.2%	△ 2,507	△ 71.5%
親会社株主に帰属する当期純利益	2,022	5.9%	500	600	1.9%	△ 1,422	△ 70.3%
配当（円）	17.00	−	未定	未定	−	−	−

© 2019 GEOSTR CORPORATION, All Rights Reserved.

参考資料

・今後予定される主なプロジェクト

・ジオスターの地下空間

セグメント製品

土木製品

© 2019 GEOSTR CORPORATION, All Rights Reserved.

今後予定される主なプロジェクト

1.リニア中央新幹線

概要：東京と名古屋を結ぶ高速鉄道

区間：品川～名古屋

第一首都圏トンネル：延長約41キロ

①北品川工区　　：約　9キロ（熊谷JV）

②梶ヶ谷工区　　：約12キロ（前田JV)

③東百合丘工区　：約　4キロ（未定）

④小野路工区　　：約12キロ（安藤・ハザマJV）

⑤第二首都圏　　：約　4キロ（未定）

第一中京圏トンネル　：延長約19キロ

①工区名未定　　：約　1キロ（未定）

②坂下西工区　　：約10キロ（安藤・ハザマJV）

③名城工区　　：約　8キロ（未定）

完成予定：2027年

© 2019 GEOSTR CORPORATION, All Rights Reserved.

2.北海道新幹線

概要：新函館北斗～札幌を結ぶ新幹線工事

区間：札幌駅～手稲トンネル

延長：約8キロ

完成予定：2030年

3.枚方トンネル

概要：新名神高速道路

枚方市域の地下部を通過するシールドトンネル

区間：大阪府枚方市～京都府八幡市

トンネル区間：約3キロ（上下線合わせて約6キロ）

完成予定：2023年

© 2019 GEOSTR CORPORATION, All Rights Reserved.

4.鹿児島東西道路

概要：鹿児島ICと鹿児島中心市街地を結ぶ道路

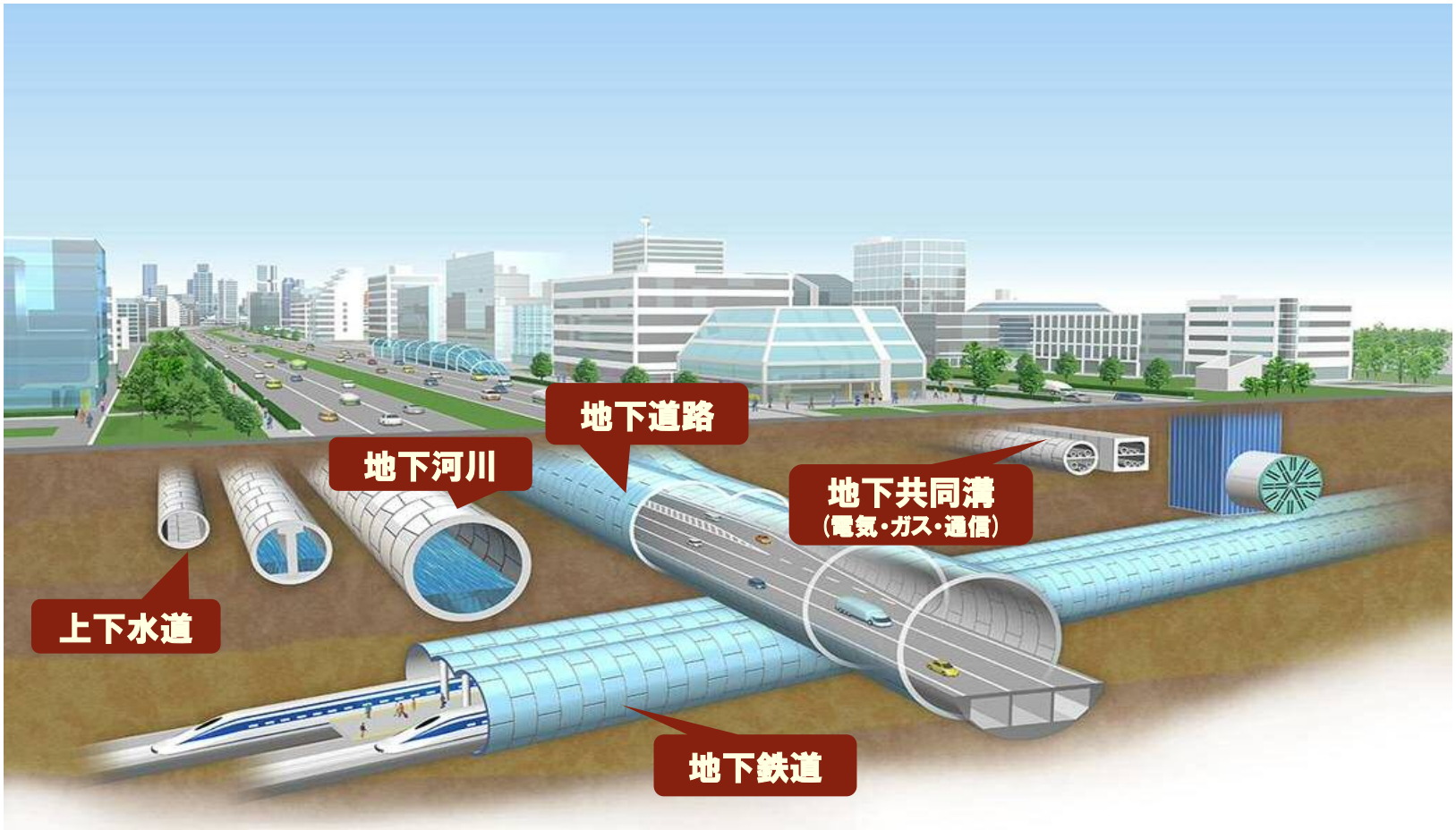
区間：田上IC～甲南IC（仮称）

トンネル区間：下り線2.3キロ

完成予定：未定

© 2019 GEOSTR CORPORATION, All Rights Reserved.

ジオスターの地下空間



© 2019 GEOSTR CORPORATION, All Rights Reserved.

セグメント製品

●RCセグメント

●スチールセグメント
●CPセグメント
●HCCPセグメント
●NMセグメント

© 2019 GEOSTR CORPORATION, All Rights Reserved.

土木製品

© 2019 GEOSTR CORPORATION, All Rights Reserved.

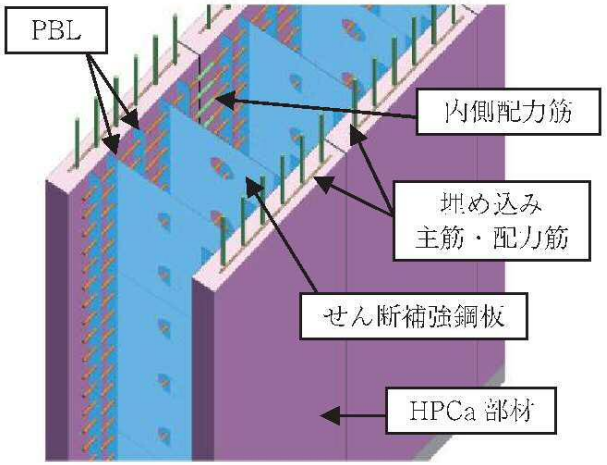
土木製品

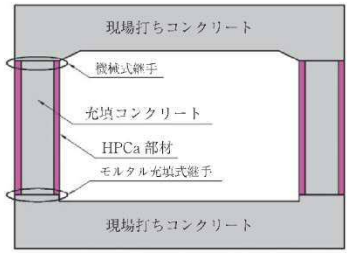
●ボックスカルバート
●アーチカルバート
●L型部材
●共同溝
●防潮堤
●モジュラーチ
●ビッグボックス
●矢板
●スラブ

© 2019 GEOSTR CORPORATION, All Rights Reserved.

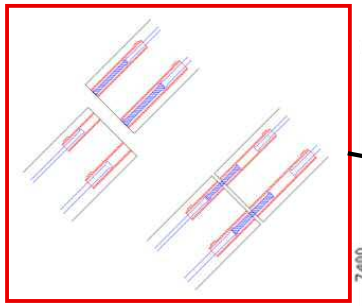
新製品開発

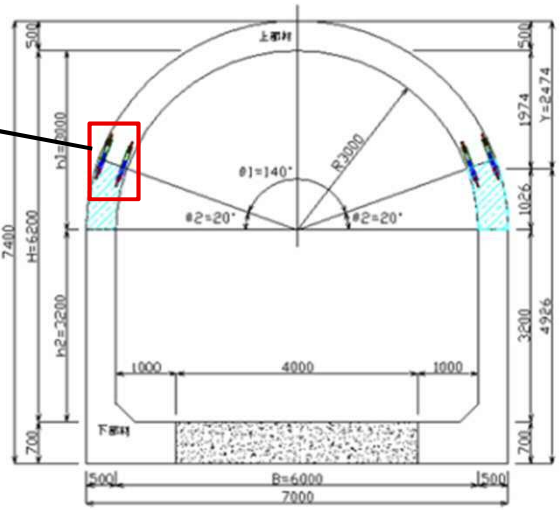
ハイブリッド
ハーフプレキャスト側壁

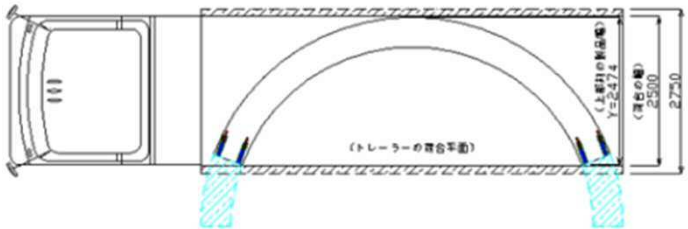




曲線用継手



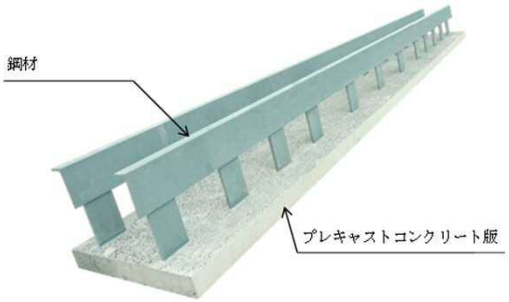


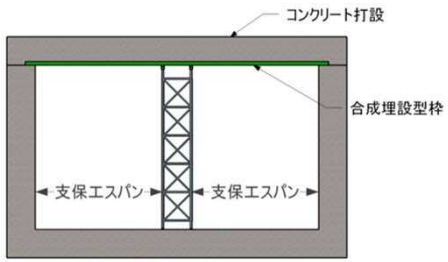


© 2019 GEOSTR CORPORATION, All Rights Reserved.

新製品開発

合成埋設型枠





合成埋設型枠とは

鋼材とプレキャストコンクリートからなる構造で、コンクリート構造物の建設において用いる埋設型枠です。現場では、図の合成埋設型枠の上部に鉄筋を配置してコンクリートを打設することで、コンクリート構造物の建設を行います。特にボックスカルバート等の地下構造物のスラブの構築においては、従来工法として型枠工・支保工等（コンクリート打設による下からの支え）に多くの時間と労力が必要となります。この建設における省力化と工期短縮および品質向上を目的に以下の特徴を有する合成埋設型枠の開発を行いました。

上部に鋼材を用いることで全体剛性が向上し、支保工（下からの支え）のスパンを長くすることが可能となりました。そのため、支保工の占用面積が大幅に削減されることで、他工種における資材の運搬通路等への使用が可能となり他の作業と同時に建設を行うことが出来ます。その結果、現場における工期短縮にも繋がります。さらに、当該型枠は、取外しが不要であり従来工法と比較して省力化が図れます。この様な特徴を有することで、近年、建設業界で求められている生産性向上（i-Construction）に貢献いたします。

© 2019 GEOSTR CORPORATION, All Rights Reserved.

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された将来の予測等は、資料作成時点で入手された情報に基づくものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控え下さいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害につきましても、当社は一切責任を負いません。

© 2019 GEOSTR CORPORATION, All Rights Reserved.